

ECHIGO-
TSUMARI
ART FIELD 2022

有形無形をつなぐアートの力

越後妻有 「アート×経営」 セミナー

Tunnel of Light/ マ・ヤンソン /MAD アーキテクト
Photo by Nakamura Osamu

日本企業の今後の課題のひとつとして、無形資産の創造と活用を指摘する声があります。無形資産は、経験、知識、ノウハウ、こだわり、ブランド、技術、ネットワークなどです。

地方創生のモデルとして国内外から注目を集める「大地の芸術祭」は、役に立たないと言われた現代アートを軸に進められた地域づくりです。20年余前、ほぼ地元全員反対のなかはじまった取組ですが、アートが媒介となって、休耕田や空き家や廃校を蘇らせ、その過程で人と人、人と自然の回路を再構築することで、新しいコミュニティの可能性を示してきました。

フィールドワーク、コワーク、プロポーザル&レビューからなる1か月のセミナーでは、「場の発見力」、「物語の構想力」、「異質なものの媒介力」など、アートがもつ有形無形の力を体感し、越後妻有のスタッフとともに地域課題と向き合うことで、参加者それぞれの現場で花開くようなイノベーションの種を持ち帰っていただきたいと思います。異質な人が集まったチームが大切です。多種多様な皆様からの参加をお待ちしております。

主催：大地の芸術祭実行委員会 共催：NPO法人越後妻有里山協働機構 企画：株式会社アートフロントギャラリー
後援：一般社団法人日本経済団体連合会

今、アートはかつてないほど求められています

地球環境が危機に瀕し、既存の価値観が揺らぎ、世界が大きく変わろうとする今、時代を表現し、未来を予見するアートの力、強烈な違和感から現状を問い、「ありうるかもしれない世界」を想像／創造するアーティストのビジョンが、硬直化、閉塞した社会の突破口を探り、課題を解決するための可能性として求められています。

アートの力によって地域再生の先陣を切り走ってきたのが「越後妻有 大地の芸術祭」です。過疎高齢化が進み、地域経済が減退する地で、アートの「発見する力」によって地域の資源を掘り起こし新たな価値を創出し、人と人、人と場所、人と自然をつなぐアートの「媒介する力」によって地域・世代・ジャンルを超えた人々の協働、都市と地域の交流、新しい観光のかたちを生み出してきた大地の芸術祭。コロナ禍によって、都市の限界、人間は自然に寄り添って生きざるをえないことが突き付けられる中、広大な里山を舞台とした四半世紀に及ぶその取り組みは一層注目され、経団連は最重要課題のひとつ「地域協創」のパートナーとして大地の芸術祭を選び、世界銀行は、持続可能な開発と包摂的成長のために大地の芸術祭をモデルとした地域経済開発を提起しています。

本セミナーは、現在開催中の第8回「大地の芸術祭」を実際に訪れ、アートが具体的にどのように活かされ、地域を変えてきたのかを体感していただき、地域住民、アーティスト、行政をはじめとするステークホルダーと交流し、語り合い、学び合い、それぞれの課題解決に向けた可能性を思考していただくことを目的に企画されました。

このセミナーが、参加者それぞれの現場で新たなイノベーションを生み出すきっかけとなること、そこから新たなネットワーク、協働の場が生まれることを願っています。



「アート×経営」セミナーで学ぶこと

▶ 場を発見、表現すること

昨今、場づくりの重要性が言われますが、私たちは実は場を語る言葉をあまり持ち合わせていません。そこでアートの出番です。アートがいかに場を発見し、言語化しにくい特性を表現していくかについて学びます。



▶ あるものを活かし、新しい価値を創造すること

空地、空き家、廃校、無人駅…。社会には様々な遊休施設があります。それらに潜在する価値をアーティストが掘り起こし、唯一無二の場所として再生する事例を見ていきます。



▶ 地域・世代・ジャンルを超えた関係をつくること

アートは無力でとても手がかかる赤ちゃんのような存在です。ただ、その赤ちゃんを育てる過程で人と人、人と自然の間に生まれる関係性を体感します。



大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

新潟県十日町市、津南町を会場に、3年毎に開催される世界最大級の国際芸術祭。2000年から行われ、今や日本各地に広がる地域芸術祭の先駆けでもあります。前回の第7回展は、50日間の会期に約54万人の来場者を集め、現在第8回展を開催中です(11月13日まで)。その経済効果にとどまらず、地域・世代・ジャンルを超えて持続する交流、協働は、地方創生のモデルとして、国内外から注目を集めています。



現地2日間の「里山フィールドワーク」では、地域のガイドンス、里山とアートの体験、地域住民や行政との交流、アーティストによるワークショップを体験し、大地の芸術祭による地域づくりの現場を学ぶとともに、グループで取り組む課題を選んでいただきます。その後、約1か月かけてグループごとに課題解決に向けた共同作業をオンラインを中心に行い（「コワーク」）、東京にて課題に応じたプランの発表と芸術祭ディレクターによる講評（「プロポーザル&レビュー」）を行う一連のセミナーです。

開催日

日程	里山フィールドワーク	コワーク	プロポーザル&レビュー
①	10/6[木]～7[金]	10/11[火]～11/4[金]	11/8[火]
②	10/27[木]～28[金]	10/31[月]～11/18[金]	11/22[火]

料金

定員：20名/回

金額：150,000円/名

（ツアー内の移動費、宿泊費、レクチャー費、食事代、大地の芸術祭パスポート料金含む）

詳細

コーディネーター：坂口裕昭

里山フィールドワーク

場所：新潟県十日町市、津南町
（行程は変更する場合があります）

2日間

コワーク

約1ヶ月

プロポーザル&レビュー

場所：アートフロントギャラリー（東京）

3時間

1日目

9:20 越後湯沢駅集合・出発
9:50～10:50 清津峡トンネル（観光資源のアート化の事例として）
11:00～11:40 磯辺行久記念館見学（芸術祭のコンセプトの学びとして）
班分け・ガイドンス
12:05～12:20 土市駅（駅の事例として）
13:00～14:00 昼食@うぶすなの家（地域との協働、空家再生の事例として）
14:20～15:20 MonET 見学（新しい美術の事例として）
15:40～16:40 絵本と木の実の美術館（廃校利用の事例として）
[三省ハウス泊] 懇親会・交流会

2日目

9:00～10:50 城山散策&農舞台見学（アートの見方の実践）
11:10～11:50 星峠の棚田・脱皮する家（棚田とアート）
12:00～13:00 昼食@奴奈川キャンパス
13:00～14:30 「土のワークショップ」(栗田宏一)@奴奈川キャンパス
14:30～15:00 振り返り@奴奈川キャンパス
15:30～16:00 たくさんの失われた窓のために、ポチョムキン（公園づくりの事例として）
17:00 越後湯沢駅到着・解散

里山フィールドワークで出された課題に取り組む。
期間中に数回、グループ毎にオンラインミーティングを開催します。

17:30～ 受付
18:00～21:00 プロポーザル&レビュー
フィールドワークに出された課題に対する企画を各チームが発表する。
芸術祭ディレクター・北川フラムの講評とレクチャー。

課題の発見
↓
課題解決の実践
↓
解決策の発表と講評

講師プロフィール

北川フラム | Fram Kitagawa

1946年新潟県高田市（現上越市）生まれ。アートディレクター、アートフロントギャラリー主宰。「大地の芸術祭」「瀬戸内国際芸術祭」などの地域づくりプロジェクトのディレクションを手がける。2017年度朝日賞、2018年度文化功労者、2019年度イーハトーブ賞他を受賞。



photo by Mao Yamamoto

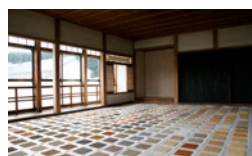
坂口裕昭 | Hiroaki Sakaguchi

FC越後妻有・シニアディレクター。弁護士。プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplus・徳島インディゴソックスの球団代表などを歴任。現在は、株式会社GATHER・COO、V1女子・久光スプリングス・エグゼクティブアドバイザー。徳島大学産業院・客員教授。



栗田宏一 | Koichi Kurita

アーティスト。1962年山梨県生まれ。1990年より日本列島の土の色合いの多様性に着目し、列島全域での土採集を始める。現在は活動を世界に広げ、フランスを中心に各地で展示を行う。越後妻有では2006年に参加。12年より越後妻有里山現代美術館にて常設展示。



宿泊場所

三省ハウス

1989年に小学校としての役割を終えた旧三省小学校は、2006年「大地の芸術祭」をきっかけに改修され、越後松之山 体験交流施設「三省ハウス」として生まれ変わりました。大地の芸術祭の拠点施設として、個人やご家族、芸術祭サポーター こへび隊など多くの方が利用する宿泊施設です。

住所：新潟県十日町市松之山小谷327

TEL 025-596-3854 <http://www.sansshohouse.jp/>



■ お申込み

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、事務局（アートフロントギャラリー）にメールあるいはファックスでご送付ください。

送付先：「アート×経営」セミナー事務局 Fax: 03-3476-4874 E-mail: art.travel@artfront.co.jp

参加日程		里山フィールドワーク	コワーク	プロポーザル&レビュー	申込期日
	<input type="checkbox"/> 日程①	10/6[木]～7[金]	10/11[火]～11/4[金]	11/8[火]	9/29[木]
	<input type="checkbox"/> 日程②	10/27[木]～28[金]	10/31[月]～11/18[金]	11/22[火]	10/20[木]
会社名					
参加人数	名 ※1社当たり5名以内とさせていただきます。				
代表者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
E-mail					
電話番号					
ご住所	〒				
参加者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
参加者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
参加者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
参加者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
参加者名	ご所属			役職	
	(フリガナ)				性別
	(氏名)				年齢
備考欄	(アレルギー等でお体に合わない食材や配慮が必要なことがございましたら、ご記入ください。)				

<里山フィールドワークツアー補足情報>

◆ガイドが同行します。添乗員は同行しません。◆移動手段：貸切バス(南越後観光バス)

旅行約款(抜粋)

◆本旅行条件書は、旅行業務第12条の4に定める取引条件説明書及び同法第12条の5に定める契約書の一部となります◆申込みは、当社所定の旅行申込書に必要事項を記入のうえ申込金を添えて申込みいただきます。申込金は旅行代金をお支払いいただく時に、その一部として繰り入れます。また旅行契約は当社が契約の締結を承諾し申込金を受領したときに成立するものといたします◆旅行契約の成立後、お客様のご都合で旅行をお取消しになる場合には取消料を頂きます。またお客様のご都合による出発日の変更、運送期間等行程中の一部の変更については、ご旅行全体のお取消しとみなし、所定の取消料を收受します◆取消料：20日前20%、8日前30%、前日40%、当日・無連絡不参加100%◆旅行条件・旅行代金の基準一本旅行条件の基準日と旅行代金の基準日は令和3年8月1日となります。

旅行企画・実施：特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構(新潟県十日町市松代3743-1 まつだい農舞台)

新潟県知事登録旅行業 第地域-440号(一般社団法人全国旅行業協会正社員)旅行業務取扱管理者 羽鳥めぐみ